岡崎混声合唱団✿、岡崎高校コーラス部

第32回定期演奏会

二〇一一 3月19日(土)

愛知県芸術劇場コンサートホール

✿14時開演 ✿13時開場

入場料(全指定席) S席/二千円 A席/千円 B席/五百円

✿信長 貴富/混声合唱とピアノのための『春と修羅』詩/宮澤 賢治
指揮◆近藤 惠子 ピアノ◆吉永 哲道(客演) 演奏◆岡崎混声合唱団

✿鈴木 輝昭/混声合唱とピアノのための『五つのエレメント』詩/谷川 俊太郎 より
指揮◆和崎 結・鈴木 匠 ピアノ◆和崎 結 演奏◆岡崎高校コーラス部

✿オムニバスステージ『ある男の物語』
構成◆川村 耕司

✿三善 晃/混声合唱のための『五つの日本民謡』より
千原 英喜/混声合唱のための『ラプソディー・イン・チカマツ〔近松門左衛門狂想〕』
指揮◆近藤 惠子 演奏◆岡崎混声合唱団・岡崎高校コーラス部

■チケットのお求めは…
チケットぴあ… http://pia.jp/t ◎TEL:0570-02-9999 ◎Pコード:125-216
チケットぴあスポット・セブンイレブン・サークルK・サンクスでも直接お買い求め頂けます。
愛知芸術文化センター内プレイガイド ◎TEL 052-972-0430

■車椅子席をご希望の方は、合唱団事務局までお問い合わせ下さい。
■合唱団事務局:中根俊樹 TEL/FAX 0564-51-4060
■後援:愛知県 岡崎市 岡崎市教育委員会 岡崎文化協会 愛知県合唱連盟 朝日新聞社
■主催:岡崎混声合唱団 ※未就学児童のご入場はお断りいたしております。

「混声合唱とピアノのための…」

近藤 惠子

昨年西宮で行われた全日本合唱コンクール一般の部に臨んだ岡崎混声合唱団（以下「岡混」と略記）は、全国大会では初めて合唱とピアノのための曲を演奏した。岡崎高校コーラス部（以下「岡コ」）も「ピアノのための」曲は全国でたった一度の経験しかなく、全日本の自由曲は両団共ずっとア・カペラ（無伴奏）作品で出場、と言うより、ア・カペラでしか全国に辿り着くことができなかった…と言うべきなのかも知れない。

今から約40年前、新任教諭として岡崎高校に着任した当時は髙田三郎作品の全盛期で、『水のいのち』や『心の四季』に懸命に取り組んだ。その頃は髙田作品とグレゴリア聖歌の結びつき等知る由もなく、アルシステーシスの何たるかも知らずに、やみくもに頑張っていた。詩の表出法は今考えても意外に的を射たものであったが、ハーモニーの作り方は平板で音の純度が低く、ピアノが加わることで何とか曲としての体裁を保っていた。しかし何か違う…と何年もの試行錯誤の末、「本当に一人一人がハーモニーを実感して歌っているのだろうか」という根本問題に突き当たった。

ピアノを取り、曲の体裁を作ることもやめて、声だけをしっかり鳴らして聴き合わせ、お互いの声に耳を澄ますことに立ち返った。

徐々に「ハモった！」とか「倍音がきこえた！」という生徒の嬉々とした声が飛び交い、やっと和音が立体になるのを実感しあった。

（倍音はまれに聴こえない人もいるが、まるで騙し絵のようなもの――昔平面に描かれた絵を、目と目の間に仕切りを置き、左右別々の画面を見ると突然ウワッと立体に見えるあの驚きに似ていて、慣れると境を作らなくても立体に見える――つまり見方聴き方を変えると、ある時ウワッと聴こえてくるから焦らないで、と伝えることにしている。）

そんな経緯もあり、約20年間殆どア・カペラばかりを演奏して来た。しかし定期演奏会ではこのところ両団共にピアノと共に歌う曲が増えて来ている。昔と大きく違うのは、ピアノは、合唱に寄り添ったり呼応したり、別の人格で合唱と対峙したりする個性的共演者であり、決して伴奏ではない点である。

さて今回は両団共、その「混声合唱とピアノのための…」曲に挑戦する。

岡混は宮澤賢治の「春と修羅」に、信長貴富が万感の思いを込めて描いた世界を、我々もピアノと共に渾身の力を込めて表現したい。

岡コは『誕生祭』以来、久々の鈴木輝昭作品で、『五つのエレメント』より「木」「光」をア・カペラで、「地」をピアノと共に。3曲共、魔性の和音に誘われて輝昭ワールドにハマっていただけたら嬉しい。

演奏会後半は例年通り両団合同で歌いなれたア・カペラスタイルで演奏。特に第4ステージは今後も持ち曲として歌い続けたい。

今回は珍しく全ステージを日本語だけで構成した。日本人の熱い血や汗や涙、人間としてのもがき苦しみ等々を饒舌に語り、歌い謡い謳いたいと願っている。

指揮◆近藤 惠子（こんどう・さとこ）

1968年、新任音楽教諭として岡崎高校に着任。以来40年、コーラス部を全国トップレベルの合唱団に導く。近年では、世界合唱大会・青年混声部門ワールドチャンピオン（2000年・2002年・2008年：岡崎高校コーラス部）、全日本合唱コンクール全国大会文部科学大臣賞（2006年：岡崎混声合唱団、2008年：岡崎高校コーラス部）などの実績をあげている。またオーケストラの合唱指揮指導者としても、（故）佐藤功太郎、（故）若杉弘、ヤン・クレンツ、ゲルハルト・ボッセ、小林研一郎、尾高忠明、ティエリー・フィッシャー各氏の信頼も厚く、数多くの出演依頼を受ける。ソリストとしてもソロリサイタルや、名古屋二期会会員時代はオペラ活動を活発に行い、歌唱力・演技力とも高い評価を得ている。豊川コールアカデミー、豊川で第九を歌う会、三河市民合唱クラブの常任指揮者としても活躍。声楽を瀬山詠子、（故）R.リッチの各氏に師事。豊川市文化奨励賞、岡崎市教育文化賞、愛知県教科教育功労賞、中日教育賞を受賞。現在岡崎高校、名古屋芸術大学非常勤講師。

◆岡崎混声合唱団

1979年、前身である「岡崎高校コーラス部ＯＢ合唱団」を結成。以来同校教諭である近藤惠子を常任指揮者として合唱活動を継続し、1999年に団名を「岡崎混声合唱団」に改称、2010年には創立30周年を迎えた。全日本合唱コンクールでは全国大会の常連として活躍、2006年には一般大編成部門の全国一位である文部科学大臣賞を受賞している。また活動の柱のひとつとして、定期演奏会を毎年3月に岡崎高校コーラス部と合同で開催。大編成の合唱団でありながら、個々のメンバーでの小アンサンブル等も含め、そのパフォーマンスの幅は広い。名古屋フィルハーモニー管弦楽団との共演や、地元の音楽イベント等にも積極的に参加するなど、地域の音楽文化の向上を目指し活動中。平成17年度愛知県芸術文化選奨文化賞受賞。

◆愛知県立岡崎高等学校コーラス部

1949年結成。1968年近藤惠子教諭着任の翌年、創部以来初めてＮＨＫコンクール県大会1位、東海北陸大会で3位に入賞し、以後17度の全国大会出場を果たす。また1993年には初めて全日本合唱コンクール全国大会に出場。以後15度の出場を果たしており、2008年度大会では念願の文部科学大臣賞を受賞した。その活躍は国内にとどまらず、2000年を記念して開催された世界合唱オリンピック（現：世界合唱大会）では青年混声部門の日本代表として参加、以降5大会連続の金メダル、通算3度の最優秀賞を獲得している。ほかにも地域からの依頼公演等にも積極的に参加、また毎年3月の定期演奏会や、名古屋フィルハーモニー交響楽団との演奏にも、岡崎混声合唱団とともに出演している。愛知県知事賞を2度、愛知県芸術文化選奨文化奨励賞を3度受賞。